

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2471000253
法人名	社会福祉法人 長茂会
事業所名	グループホーム わらべ
所在地 (電話番号)	尾鷲市大字南浦古里の上4689-1 (電話) 0597-25-2502
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 18 日(木)

## 【情報提供票より】 (H19年9月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円~
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(9月1)現在

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		1 名	要介護2		5 名	
要介護3		8 名	要介護4		3 名	
要介護5		1 名	要支援2		1 名	
年齢	平均	84 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾鷲総合病院 長茂会診療所 東歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周りを自然に囲まれ又、眼下には尾鷲湾を望み、四季折々の風情が楽しめる風光明媚な場所にあり、各居室から眺める景色は最高であり、眺めているだけで心が和む。又敷地内には畑もあり利用者と共に季節の野菜作りをしている。収穫した野菜は食事の材料として使用されている。又、管理者の指導が行き届いており職員は「自分の親として」という理念を念頭に置き、利用者本位の手厚い支援が行われている。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進協議会が開催されており、状況報告や意見交換を通じて地域との交流も活発化された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は評価の意義・目的をよく理解をしている。今回の自己評価も全職員で検討をしサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは市職員・地域包括センター職員・地域住民代表・民生委員・家族代表で、行事報告を行い、それらに限らず意見や指導をいただき、利用者に対する支援に役立たせている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情よりも要望が多いようだが、よりいっそう家族の不安をなくすように努めてほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りなどには積極的に参加し、当法人内での行事には多数の地域の方が参加されている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分の親として」の心を念頭におきながら、ゆったりと安心して生きる日々を大切にしている理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や朝礼時に理念を復唱し、確認しながら利用者の支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の参加は少ないが祭り等の見学を通じ、また、当法人の行事などに参加して地域の方々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み月1回検討会を行い意義や目的などを周知し改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、会議では事業所の具体的な状況を報告し意見なども取り入れてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域連合の担当者とは積極的に関わる機会を作り、相談したり、情報交換している。市の担当者は、運営推進会議に出席してもらっており、市・広域連合から、指導・助言をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭出納帳の写しを送付している。又、電話や事業所独自で個人のお便りを作成し近況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ大きな問題(苦情など)はないが当法人内で民間人(弁護士・保護士)を含めたメンバーで苦情解決委員会が設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者への支援に支障をきたさないように、馴染みの職員と協力し利用者が満足の出来る支援に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、外部研修(県グループホーム連絡協議会など)に参加し、研修内容を職場に持ち帰り伝達講習を行いサービスの質の向上に努めている。	○	研修の機会をもっと増やしていきたいとのことなので、ぜひ計画的に取り組み実現されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し交流を図っている。	○	地域内外の他事業所との情報交換等交流が不可欠であり、形式的な表面上の交流でなく、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携となることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当事業所を利用する前に訪問をしてもらい、事業所の雰囲気や利用者馴染んでもらえるようにしている。又、併設のショートステイを利用しながら待機してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けを教わったり、畑作業、掃除など一緒に行っている。又、散歩のときなど草花の名前を教わったりもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけをして希望や意向を聞き、その日その時の言葉や表情を見ながら支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット別に本人の思いや家族の要望を検討し、代表会議を開き、それぞれの意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回見直しを行っているが、職員の意見、家族の要望、退院後など随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院や美容院、自宅訪問や彼岸とお盆のお墓参りの付添い送迎など個別の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や本人・家族の希望する医療機関で診察を受けられるように配慮をしており、通院の介助も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていないが、あらかじめ家族等の意向を聞き職員全員が方針を共有し、定期及び適宜家族に連絡をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者には敬いの気持ちを持って対応している。特に言葉使いに注意している。個人情報にも充分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特定日を決めずに買い物・外出など本人の意思を尊重し、利用者のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の献立をもとに、時には自家農園で採れた野菜を使用し、声かけを行って利用者が楽しく食事が出来るように努めている。又、配膳・片付けなど利用者にも手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来るが利用者の意向・体調を考慮し楽しんで入浴が出来るよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞の整理、畑作業、洗濯物の整理、モップ掛けなど利用者一人ひとりの意向に任せている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然に囲まれた地形を生かし散歩・ドライブに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はショートステイ施設と共通の為と夜間は防犯の為施錠をしている。各部屋は施錠していない。	○	構造上の問題はあるが、鍵をかけることの弊害を理解していただき、出来るだけ施錠しないような方法がないか、今後も継続して取り組まれることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署等の協力を得て毎月1回実施している。又、年2回程度夜間を想定した訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立を利用している。水分の摂取は朝・昼のおやつの時、又、医師の指導による水分補給にも配慮している。夜間はいつでもお茶が飲めるように居間のテーブルの上に用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光・通風ともによく、廊下の壁には利用者と職員が作成したちぎり絵などの作品が掛けられ雰囲気を和らげている。居間・食堂、トイレ・浴室は清潔で利用者にとって居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の使い慣れた馴染みの物を持ち込み、落ちついて過ごせる場所になっている。		